

看護部だより

ひまわり



2011年 11月

発行責任者:山口圭子

Vol. 15

講演会

10/28 災害看護 「災害への備え」
講師:高田久子氏



鹿児島赤十字病院の高田久子先生を講師に迎え、災害看護についての講演会を開催し、96名(院内70名、院外26名)の参加がありました。

記憶に新しい東日本大震災時の石巻赤十字病院の初動の様子がDVDで流されました。

初め、地震で室内が揺れている所から写り、その後すぐに対策本部が立ち上がり、被災した患者が運ばれるための準備をリーダーの指示で始める場面でした。その動きは自分が被災した直後であれば、難しいことであろうと思いましたが、石巻赤十字病院では病院スタッフから委託職員まで毎年災害訓練をしている賜物であるとのことでした。

テレビ映像から震災の様子が流れ、本当に大変な被害であると感じていましたが、このDVDで病院の廊下にベッドがおかれその上で横たわっている患者やスタッフ間のやり取りをみたことで震災の恐怖を今まで以上に身近に感じました。そのような状況のなかで落ち着いて対応するためには、日々の訓練(災害訓練やシミュレーションやアクションカードも有効のことでした)が大切であること、災害発生時に求められることは「思いやり」と豊かな「発想力」ということも学びました。

実際には自分の身近なところで災害が起こるということは想像しがたいですが、いつ起こるか分からない災害について日頃から意識して備えておく必要があるということを再認識でき今回の講演はとても意義深いものでした。

次回は、11月25日に災害看護～心のケア～の講演が予定されています。多くの方に参加してもらいたいと思います。(榎園)

災害看護に関する情報提供

- ・兵庫県立大学ホームページ
<http://www.coe-cnas.jp/21coe/purpose.html>
ユビキタス社会における災害看護拠点の形成
- ・日本看護協会ホームページ
看護職の皆様へ⇒看護実践情報⇒災害看護
- ・日本災害看護学会ホームページ
- ・日本赤十字社ホームページ
⇒国内災害救護⇒資料で見る国内災害救護
⇒You Tube (Japanese Red Cross PR)



専門コース

緩和ケア研修 “事例から学ぶ全人的ケア”(10/26開催)

4東病棟 片平広美主任

研修前に、日ごろ看護する中でどのような悩みを持っているのか、ジレンマや不安に思っていることなどをレポートにまとめて参加しました。

初めに喪失模擬体験を行い、大切にしている物、最も価値のあるもの、最も愛している人など25個あげ、講師が読む症例に合わせて1つずつ消していました。模擬体験と解っているのに、一つ消すたびに切なかつたり、さびしかつたり苦しかつたり。実際に喪失を経験する患者はどれだけ辛いのか、図りきれないと強く感じました。

講師の言葉の中で「苦しみの中からある時、希望が生まれてくる」生活を支える看護師として「気持ちが良いと感じてもらうことを積み重ねていく。これが緩和ケア」と話

して下さったことが強く残りました。

今回の研修を受講して、患者のつらい気持ちを私達がどれだけ受け止め、患者に返すことができるだろうと考えました。私達自身もつらいことを誰かに伝えると気持ちが軽くなります。意思決定のサポート、在宅ケアへのサポート、精神的負担のサポート、悲嘆のケアのためにも話を聞くことの意味を考えました。聴くことで「気持ちが落ち着いた、安心する、考えがまとまった、考え方の整理がついた」と思えるように看護師として支えることができるようにならうと思いました。



教育研修レポート

スタートイング

9/17～18、9/24～25に新人看護師の一泊患者入院体験を実施し、10/13に発表会・意見交換をおこないました。実際に一泊入院することで、患者の立場になって患者の思い・看護師の対応や病室の環境など、いろいろな事に気付くことができた体験だったと思います。その体験で感じた事などを、今後の看護に活かしてほしいと思いました。発表を聞いて、自分達も普段の患者さんの関わり方などを振り返るいい機会になりました。（黒坂）



ジャンプ

9/22 実習指導案の発表
講師：田口弥生主任

実習指導の原理・実習指導案作成の基礎知識と実習指導案（週案）の作成、2回の講義を受け、各グループで検討した実習指導案の発表を行いました。研修生の中には、「とても難しかった」などといった声が聞こえており、実習生を思いながらの指導案作成に苦慮していた様でした。今後は指導方法の工夫や実習生の思いなどを考慮した関わりができるのではないかと期待しています。（吉永）



キャリア

10/4 中間報告会

今回の内容は、キャリア2年目以上の人達の年間目標に対する中間報告会でした。いろいろな目標や活動内容が発表され、自分が今まで気づけなかったこと、知らなかった事が沢山ある事を改めて知る事ができました。私自身、今後の活動を考える上で必要な情報を得る事ができました。

今回の研修のように、お互いがお互いを刺激し合い、キャリアである私達が行動する事で他のスタッフにいい刺激が与えられるような環境を病棟で作っていきたいと感じました。（中森）



アシstantナース

10/18、10/25 危険予知訓練
講師：城ノ下実千代師長

病棟内でもよくある場面（写真）の事例をもとにKYT基礎4ラウンド法でグループワークを行いそれぞれ発表してもらいました。

文章にすることが難しく苦戦しているようでしたが、それぞれのグループの特性もあり危険予知はできていたと感じます。最後にはグループ毎に実施目標を設定して指先呼称して締めくくりました。

アシstantナースのみなさんも日々の業務の中で色々な危険があります。今回のトレーニングを理解してもらい、自分自身で気づき危険予知が行え、患者の安全を確保する為の行動がとれるようになってもらいたいと思います。（幸得）





10/5 糖尿病看護

糖尿病の病態から始まりインスリンの種類から作用時間・保管方法・使用方法、その他低血糖の観察から対処方法とインスリンの危険性・栄養素による血糖の変動や1日のインスリン量・インスリン自己注射指導について根拠づけて分かりやすく事例をあげて説明しております。

忘れていたものが復習できインスリンでない注射薬など新たな発見もできました。

受講することでインスリンの知識・技術を看護師自身がきちんと習得することが大事であり、また適切な指導ができインシデント予防につながるということが改めて認識できました。

なかでもインスリン自己注射指導についてはポイントを押さえてありますので今後の指導について非常に役立つと思います。是非、ご覧下さい。(外来 濱田)

9/7 最新のケア技術③(褥瘡・創傷)

何といっても褥瘡は、「つくれない！悪化させない！早く治す！」が最大のポイントであることは当然です。褥瘡ケアにおいて<共通のケアの目標>を持ち、チームでアプローチしつつ痛みのケアも重要視すること！を忘れずにケアを行っていくところも大事だと感じました。褥瘡の基本を振り返って復習できる内容です。(回復リハ 阿多)

8/17 最新のケア技術②(気道ケア)

看護師にとって、身近なケアである、吸引、排痰法について、エビデンスを持って日頃実施されているでしょうか？出来ているという方も、…自信がないな～という方もこの研修は、復習の意味も含めて、知識・技術の向上につなげられる内容になっていると思います。吸引や排痰法の観察のポイント、そこからどのようなケアが必要か判断するアセスメント力が身につくと思います。(4西 福山)

9/21 急性期の栄養管理と集中治療

急性期において、高カロリー輸液や経腸栄養などを使用し栄養管理を行うことは、患者の回復過程において重要な役割を果たしていることについて、基礎的な知識から詳細な文献を使用していただためとても分かりやすく、復習をしながら自分の知識を確認したり、新たに学びを得たりすることができました。

日々患者さんと関わる際、今回学んだことを活用し看護に活かしていきたいと思いました。(3西 宮里)



業務委員会レポート

手術室 村尾智子師長

平成23年度の看護基準手順委員会の目標は

「看護基準手順の充実と浸透を図り、統一した実践的看護ケア技術を提供できる」

とし、活動内容として

- ① 看護基準手順の充実のための浸透を図る
- ② 新規看護基準手順のマニュアル作成
- ③ 看護ケアマニュアルの追加修正

を挙げています。

委員会の活動は、看護手順の統一を図り、広く活用してもらえるよう内容を充実させ、質の高い看護提供へつなげることをビジョンとしています。22年度に完成した手順マニュアル第1版により、浸透状況も図れてきています。しかし、実践の中で不備や不都合な部分も見え始めて第2版作成の必要な項目もでてきました。

新人や中途採用者の方々にも、どんどん活用していただき、標準看護ケアの充実を図っていきたいと思っています。また、新しい看護ケア情報を取り入れるなども心がけていきたいと思います。

まずは、電子カルテにある看護手順を開くことから始めていただくと嬉しく思います。

自己血輸血看護師制度認定を取得して 回復リハビリ病棟 小嶋和子主任

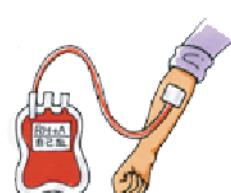
今年3月に日本自己血輸血学会、日本輸血・細胞治療学会認定の自己血輸血看護師制度の認定を取得了しました。

今回の受講で、自己血輸血はこれからの医療にとって重要な位置にあると感じました。同種血輸血の安全性は向上しましたが、献血者におけるHIV抗体検査陽性者数の増加、少子高齢化に伴う献血血液供給量の不足など問題があります。

一方、貯血式自己血採血は、輸血感染症や輸血後GVHD及び同種免疫抗体発生を防止する効果がある輸血療法です。また、患者が医療へ参加し病気と闘う意識を高めることにより得られる精神的効果もあります。

自己血輸血とは、輸血が必要となる可能性が高い待機的手術のケースで、あらかじめ貯えておいた自分の血液を輸血する方法です。しかし 自分の血液だから絶対安全という事はありません。

貯血する際の血管迷走神経反射発生時の対処法や発熱・下痢等の細菌汚染、返血時の患者取り違い事故などの問題もあり実施管理体制の確立が重要です。感染防止の皮膚の消毒方法、患者の一般状態の確認等々患者と共に貯血を安全に安心して手術に役立ててもらえるように取り組んでいきたいと思います。



マイブーム

4東病棟 堀之内梓さん

多趣味で飽きっぽい性格の私ですが、幼い頃から習っていた踊りを最近また始めました。昔は日本舞踊だったのですが、祖母の影響を受け今は盆旅舞踊を習っています。盆旅は男役が多く、かつらをかぶり、三度笠や合羽・刀を使しながら踊ります。下は小学生から上は80歳代と年齢層が幅広く、20歳代の仲間はいませんが、おじちゃん・おばちゃんにチヤホヤされながら、毎週楽しく踊っています。足腰の悪い人達が練習を重ね舞台に立つことは、とても大変なことです。稻刈りや農家で忙しく、治療やりハビリの為に病院へ通う人達もいます。いろんな事情がある中でも、懸命に練習し発表会で踊る姿にはいつも感動します。祖母は、踊ることになると生き生きしており、それが長生きの秘訣かもしれません。これから先、踊り仲間と何回一緒に舞台に立てるのか分かりませんが、今の時間を楽しく大切に過ごしていきたいです。



第16回 日本看護サミット福岡'11 (11月1・2日)

4西病棟 田口弥生主任

今回のテーマは「看護新時代」。公益社団法人日本看護協会会长坂本すが先生の基調講演に始まり、新時代に問われる看護管理から変革の時代における看護への期待・看護の評価等について学んできました。

日本看護協会は①労働環境の改善②国民のニーズへの対応③専門職としてのやりがいの3つに重点をおき活動しています。これからの少子・高齢・多死社会の到来の中で、少ない医療従事者で多くのニーズに対応することや、急性期から在宅へと「渡す」医療、幅広い看護への展開、「医療」と「福祉」の両面を支える看護が求められています。看護師の活動の場も、医療機関だけでなく在宅へ、生活を支援する医療へと多岐にわたることから、他職種との連携をはかりチーム医療の推進がさらに求められています。看護職の高度な専門的知識と技術の育成は必須であり、その力が發揮できる活動の場と役割を拡大していく必要があります。魅力ある職場づくり、魅力的なキャリア像を目指し、「こんな看護がしたい」を実現できるよう取り組んでいきたいと思います。



がん看護エキスパートナース研修 (10月12~20日)

3西病棟 福圓晃代

患者・家族の希望に沿って、残された時間を有意義に過ごせるように関わっていましたが、どこかで自分の看護にジレンマを強く感じていました。がん看護エキスパートナース研修が鹿児島医療センターで開催されると聞き、がん看護について深く学びたいと思い受講しました。

講義内容は、がんの基礎的知識、認定看護師の現場の状況・看護について幅広いものでした。実習では、認定看護師の動きや、副作用の早期発見・予防策を患者に指導している姿や統一された看護が提供出来るよう、ツール・パンフレットを使用している場面を見学しました。内布敦子先生の「患者中心の症状マネジメントと統合的アプローチ」の講義では、統合的アプローチをするためには、“症状は患者が感じる主観的な体験であり、その主役は患者自身である”という考え方が必要であると学びました。今後、患者中心のマネジメントとしてこの考え方を基本にし、応用していく必要があります。この研修で学んだことを1つでも、自分の看護に結び付け、患者の希望に添い有意義な時間が過ごせるよう看護を提供したいと思います。



編集後記

秋とは名ばかりの暑い日が続く中、県内外の学会や研修等に多くの職員が参加しました。それに伴い、事前課題や報告書、ケースレポートなどがあるわけですが、何を伝えたいのか分かりにくかったり、ボキャブラリーが少なくワンパターんだったりして、レポートの書きなおしに結構、時間を費やされています。

レポートは、見聞きしたこと、頭で考えたこと、調べたこと、体験したことから「問題を整理し、考えを深めること」が1番の目的です。論理的な思考、作文力、読解力などが必要で、その為には、日頃から質の良い文章を読むことが大事になります。「質の低い文章を読み過ぎれば読解力は低下する」と書いている人もいます。マンガやテレビばかりでなく、意識して論説的な本など読み、考えたことを文章にすることを習慣化してみて下さい。

